

熊本市の農産物

熊本市では水、土壌、気候などの豊かな自然環境を活かして、各地で特色ある農業が営まれ、多種多様な農産物が生産されています。

露地栽培だけでなく施設園芸も盛んで、台風などの気象災害に強く、暖房設備の整備されたビニールハウスなどの栽培施設が多数導入されており、熊本市の安全・安心でおいしい農産物は全国に向けて安定的に出荷されています。

また、農業者の生産技術・意欲が非常に高く、高品質生産にとどまらず、環境に配慮した持続可能な農業生産活動にも積極的に取り組んでいることも大きな特徴です。



くまもとの代表的な作物を紹介します。

資料：平成27年作況調査（農林水産省）、2015年農林業センサス（農林水産省）、平成27年市町村別農業産出額（推計）（農林水産省）、市調べ

米

作付面積(ha)	産出額(百万円)
4,310	4,680

稲の栽培は、3000年ほど前の縄文時代に日本に伝わったといわれており、現在も日本人の主食として、さまざまな品種が栽培されています。

稲の種類を大きく分けると、主にご飯として食べる「うるち米」と、餅・せんべいなどに加工して食べる「もち米」があります。最近では、これらの米を製粉して作られる「米粉」の需要が高まっており、パンやお菓子などの加工品に利用されています。

うるち米は、本市のほぼ全域で栽培されており、秋津・東部・飽田では「くまさんの力」、城南・富合では「森のくまさん」「あきまさり」、植木では「森のくまさん」「ヒノヒカリ」という品種の生産が盛んです。

もち米は、飽田・天明・中島の海岸部を中心に「ヒヨクモチ」という品種が栽培されています。

田植えの時期は、6月下旬ごろで、収穫の時期は、うるち米は10月中旬ごろ、もち米は10月下旬ごろです。

また、たくさんの水を湛えられる水田は、地下水かん養・大雨の時のダム機能などの多面的機能を有しており、私たちの暮らしを守ってくれています。



麦(小麦・大麦)

作付面積(ha)	産出額(百万円)
1,109	120

麦の栽培は、2000年以上前の弥生時代に日本に伝わったといわれています。

本市で栽培される麦の種類には、主に製粉して利用される小麦と、焼酎などに使われる大麦があります。

小麦は、城南・富合で「シロガネコムギ」「ニシノカオリ」、秋津で「ミナミノカオリ」、河内で「チクゴイズミ」という品種の栽培が盛んです。また、大麦は、天明を中心に「ニシノホシ」という品種が栽培されています。

11月ごろに種を播き、大麦は5月下旬、小麦は6月上旬に収穫を行います。

健軍・清水・竜田では、種子用小麦が生産されており、県内の麦作農家の約6割に供給されています。



大豆

作付面積(ha)	産出額(百万円)
359	100

大豆の栽培は、2000年以上前の弥生時代に日本に伝わったといわれています。

本市では、城南・富合・秋津を中心に中粒種の「フクユタカ」、秋津・東部を中心に小粒種の「すずおとめ」という品種が主に栽培され、7月ごろに種まき、11月ごろに収穫されます。

「フクユタカ」は豆腐・きな粉・味噌・醤油などに利用され、「すずおとめ」は納豆の原料として用いられます。また、収穫された大豆の約2割は県内農家に種子用として供給されています。

地産地消運動の一環として、市内の小、中学校の給食には市内産の大豆を使った納豆、味噌、豆腐が一部導入されています。



くまもとで穫れたおいしい農産物を食べましょう。

